

平成23年度 第1回田原市図書館協議会議事録

日時：平成24年1月31日 午後2時～午後3時40分

場所：田原文化会館202会議室

出席者：協議会委員8名

（中島、山田、山口、岩崎、光部、加藤怜、加藤信、高見）

事務局3名（豊田、惣卜、鋤柄）

議事内容

- ・ 開会
- ・ 館長あいさつ
- ・ 辞令交付
- ・ 自己紹介
- ・ 委員長の選出

事務局：それでは委員長の選出をお願いします。なお、委員長は、校長会代表で、福江小学校の澤井校長先生にやっていたいておりましたが、充て職であったということで、23年度役職が代わられましたので、ここで新たに選出をお願いするものです。どなたかご意見ございませんか。

委員：慣例ということで、中尾先生でいかがでしょうか

全員：異議なし

事務局：では、委員長は中尾様にお願いすることとさせていただきます。規則で「委員長に事故があるとき、または委員長が欠けたときは、副委員長が職務を代理する」ということになっております。副委員長の「中島様」に委員長代理をお願いしまして、議事の進行をお願いします。

副委員長：よろしくをお願いします。

協議内容に入りたいと思います。

協議1 田原市図書館の運営状況について

館長：年報等の資料により説明

質疑応答

副委員長：誰か質問ありませんか。

委員：小学校へ移動図書館は、どのくらいの割合で行っているのか？

館長：月2回の巡回です。夏休みはありません。

委員：その小学校で子どもたちが読みたい本、リクエストはできるのか？

館長：リクエストで対応できます。

副委員長：ほかにありませんか。無いようでしたら次の議題にうつらせていただきます。

協議2 田原市図書館の評価について

館長：評価方法について、事前に送付した資料に基づき説明

質疑応答

副委員長：この場で結論ではなく、感じられたことをざっくばらんに出してほしい。意見ををお願いします。

館長：補足説明 今日と次回と2回で検討を行なう。今日いただいた意見を持ち帰って、皆さんの意見を入れて組み立て、まとめて、事前に送り2回目で意見をいただきたい。

副委員長：思いつきでもいいので、今こう思っているという意見を出していただければと思います。そうすればどういう風にしていくか見えてくると思う。

委員：現在、利用者アンケート、ワークショップはしていないのですか？

館長：両方ともしていません。田原市全体の行政の満足度、重要度のアンケート調査、世論調査のような形でやっている。以前は図書館という独立の項目があったが、生涯学習という形でまとめられている。

委員：評価を具体的に来年度からやるということか。

館長：来年度から実施する。

委員：杉並区、豊中、もうひとつ館長の居られた静岡市。事例紹介に杉並区を選んだ理由はなんですか？

館長：杉並区は、図書館協議会が深く関わっているため紹介しました。個人的には、協議会に評価してもらうのが図書館の評価として望ましい。それ以外お手盛り評価になってしまう。アンケートだけで評価に代えてしまう形になってしまう。評価のために委員会をつくる場合もあるが手がかかりすぎてしまう。せっかく協議会があるので、使っている事例がないか搜したところが杉並区です。

委員：検討されている評価方法ですが、いずれも基本的には図書館に関わりを持っている人を対象にしている。図書館そのものに対して、住民がどのように印象、存在を持っているのか、全住民というか全家庭に対して、図書館をどうとらえていくか、アンケートが必要ではないか。

館長：世論調査のようなものを使うことができればよいが、実際にはコスト面など問題がある。ひとつの可能性として、インターネットを使ったアンケートなら可能だが、それも回答者がネットを使える人となってしまいが、検討する余地はある。

副委員長：WEBを使うということと、WEBが使えない環境の方には紙媒体で何らかの

仕掛けをつくるとか、できるだけ部数を多くする、そういう事も必要だと思う。WEBはある程度の年齢の方までは、普通に使われているし、WEBは有効な手段かなと思う。個人的印象であります。

委員：副委員長さんは、豊橋の図書館でやっているのですか。

副委員長：研究会で少しやっています。WEBでアンケートとかグーグルとかですることができます。うまくやれば、経費をかけずにできます。

館長：学校を通じて、全部の幼保小中の保護者にアンケートを昨年度実施しました。大学との協力で、椙山女学園大学に依頼して実施している。大学で集計・分析をしており、結果はまだまとめているという状況です。この方法は、お金はかからないが、幼保小中に負担がかかるし、分析に手間がかかる。大学の研究費でまかなっていただいているが、何度も使える方法ではない。今後、いろいろな調査を行なった場合、比較の基準には使えると思う。

委員：学校を通して保護者向けということで、生徒には行っていないのですか。

館長：生徒には子ども読書推進計画をつくるときに行なっています。4年位前になりますが、情報としては古い情報です。

委員：今は行っていないのですか。

館長：今は実施していません。保護者に限定したというのは、保護者の関わり方が子どもたちの読書に影響が出るのではないかという視点で行なわれた調査だから。去年、厚労省が行なった調査で、そういう結果がでている。

委員：渥美半島は農業が進んだ町。JAとかこれから農業がどうあるべき、放射能とか、農家がやっていけないといういろいろな問題がある。資料を提供するという事で農家が読みたい資料、要望をJAから流してもらえないのか。普通の町の杉並区ではありえない、この地域の特性を考えて、そういうことをすることによって、図書館と市民の間の情報がうまく行くのではないか。百姓は、難しいということを感じて無農薬とか有機肥料とかの情報がほしいと思った。今この地域では、豚舎とか堆肥とかの問題がある。チッソの多い野菜ができていて、健康的に悪いということを知っている。一部の農家は危機意識を抱いている。何が困っているか情報を図書館が提案するという方法をとっていただくと、この地域がもっと先進的な農業地域になるのではないか。

館長：全国有数の農業地域であるが、JAを始めとする農業団体と直接の関係は無かった。サービス、ニーズの調査について何らかの関係づくりは、やっていかななくては行かないのかと思う。読書のことについて「家の光」で年1回全国の農村の読書調査をしているので参考にしたい。

副委員長：産業に関するニーズから掘り起こしていくということですね。

委員：利用者アンケートは目標とする5本の柱があるが、それが評価できるような質問項目を順次、具体的につくっていくということか。

館長：5本の柱にストレートに結びつくような形にできるかどうか、落としてみないとわからないが、5つの柱の評価に結びつくような形になればいいと思う。

委員：何らかの形で評価と結びついていくとわかると思う。

館長：具体的に質問形式でやるか、知恵を絞らないといけない。

委員：今まで実施されていなかったということだが、今、聞こえてくる要望はあるのか？

館長：資料に関すること、リクエスト、窓口、行事など...いろいろあります。集約して全体で共有できるようにしている。

副委員長：利用者からの声を図書館で受けとめて、利用者側にフィードバックされます。それを目に見える形で具体的に何かしていますか。

館長：それも実施していなかったが、投書箱を設置予定である。皆さんからいただいた意見に対してこういうふうに改善しましたと掲示とかファイルにするとかそういう形で実施したいと思っている。

副委員長：そういう声に応えていくのも図書館の評価につながっていく。うちでも利用者の声を吸い上げる方法を近々打ちあげたい、どういうふうにやるか、WEBでやるか検討し、意見をいただいた方たちに図書館はこう改善したとやってみたい。田原にもそういうのがあれば利用者の評価につながっていくのではないかと思います。個人的な意見ですが。

委員：財政状況が厳しくなっていくなかで、お金をかけないでできないか。スマートフォンなどを利用すれば、お金をかけないでアンケートが行なえるのではないか。

副委員長：WEB環境は整備されつつあるので、WEBを有効に使えるとよい。

委員：図書館の通信簿は、年代の割り振りされたのですか。

館長：来館された方すべてに渡していた。

委員：アンケートの合計数はどれくらい考えているのか。

館長：千となると集計大変ですし、どれくらいがいいのか、答を出していない。質問数が少なければまとまった数でできる。集計数多いと処理が厳しくなる。

委員：館長が就任されて意識が変わったことを評価します。

館長：利用が伸び続けていたので必要を感じなかったが、利用者の伸びのカーブが緩やかになった、考えなくてはならなくなったということです。

委員：個人的な意見ですが、アンケートはたくさん配らないと精度があがらないのでワークショップのほうがいいのでは？

改善し、関心のある人に絞ってチェックしていただいたほうが確実な意見が出るので

はないか。図書館に親しみを持っている人が対象で意見が偏るかもしれないが、そこから始めてみてはどうか。

委員：戻ってしまうが目標の5本の柱をアンケートに、いくつ設けるかということになると、そう考えると杉並区のアクセスとかいいのでは。ここに合わせて数を絞っていいかどうか、それなりに治まるのではないか。

委員：コストがかからず意見反映するには、意見箱はよい方法、集約できるものの1つではないか、図書館がいい方向へ向かっていくという形になって現れる。田原は田舎なので、噂がすぐまわる、噂で評価が決まってしまう。いい形でいい評価がまわれば、図書館は良くなって行くことが一人一人に伝わっていけば、いいのかなと思う。多くの問題を求めると、関心のある人は返すが、ない人からは答が返ってこない。

一番意見を聞きたい人からは返ってこない。まずは図書館の意見の集約が大事である。

委員：子どもの貸出多く、61歳以上が少ないといったが、その団塊世代のニーズに合わせて、読みたい本を提供するようないい方法があれば、もっと伸びるのではないか。

館長：何でみえないのか、61歳以上の方といっても年代はさまざま、80代、90代の方もかなりみえる。いろいろな理由があると思う。いろいろな条件を考えなくてはならない。前に静岡でそういう調査をしたが、目が悪くて読めない、返すのが大儀だなど、図書館を利用しない理由はさまざま、いろんな条件がある。理由を知りたいなと思う。アクセス手段がない世代を適当な方法で調べることができれば、それぞれに対し対策は考えられる。

委員：小学校へは月2回まわっているが、団塊世代が出席せざるを得ない寄り合い等の場所へ移動図書館が出向くことはできないのか。費用面でつまづくのか。

館長：学校へまわるようになったのは、いろいろな理由がある。車は2台しかない。それを平日の昼間の時間に回すということは、人が集まる場所は限られる。地域の寄り合いは平日の夜や土日にやることが多いと思うので、巡回のしやすさという条件があったのかと思う。

出て行ってサービスしないと使ってもらえないという意味では、委員のおっしゃることは、そのとおりです。

委員：多くを求めると散漫になってしまう。1つに絞って検討してはどうか。例えばアンケートとか意見箱の設置をするということです。

館長：満足度チェックだけするような、小さな紙で来た方がいつでも入れられるようにする。そして裏側に意見を書くような方法を見たことがある。

副委員長：総合的にいろいろな観点から評価する事も必要と考える。ある程度時間をかけてじっくりと図書館の通信簿のような項目、毎年でなくいろんな方法を組み合わせて

総合的に評価することも考えられる。どれかひとつという方法もある。どれも一長一短あるが、いい結果がでるような方法を考えていくべきだと思います。費用効果を考えると難しいと思いますが。

委員：意見箱は自然な形で利用者に聞いて、具体的な意見もあると思う。図書館としては、運営、管理に関して3年に1回くらい総括することが必要ではないか。

副委員長：いかがでしょうか。

館長：意見を集約して評価方法案を作成し、案を報告した上で次回、意見を聞くようにしたい。

副委員長：次回までにより具体的な案を作ってください、それをもとに次回審議することによろしいでしょうか。そういうことでこの案件については、終わらせていただきます。

協議3 その他

事務局：次回は3月9日（金）午後2時でよろしいか。

予定させていただきます。

委員：昨日、NPOたはら広場の震災支援会議に出席した。こういう意見があった。

現地は何もなく、子どもたちは本を読みたくても本がない状況です。

図書館側の支援はどうなったのか？ 不用図書を送ってはい

程度のいいものを提供できないか

館長：情報を集めてNPOたはら広場に提供し、検討していただいている。

委員：3月11日にイベントを行なう。野菜といっしょに送ったらどうか。仮設住宅に送る方法を検討してはどうか。

館長：本は、いっているが捌けない。捌く人がいない状況である。流れる仕組みが必要で

す。聞くところによると、衣類のように本もたくさん送られ、あふれている場所もあるようです。

副委員長：ほかにはありませんか。

委員：Padはどうなっているのか。

館長：23年度に購入し、ルールを決めないといけないので、運用は24年度から行ない

ます。

委員：あわてないでゆっくりやってみよう。安くなっているのでは。

副委員長：耐震対策はどのようにしていますか。

具体的に棚から本が落ちないような対策をしていますか。

館長：耐震設計した建設当初のまま、以降特別なことはやっていない。

危機管理マニュアルを作成しなければいけないと思っている。

副委員長：落下した本で通路が塞がれたり、高い棚から本が落ちてきたりと危険です。

館長：棚の対策を含め、防災対策を検討していきたい。マニュアルの整備とかこれからの課題です。

委員：子どもの利用が多いと聞くので、早急に対応をお願いします。

耐震をすすめてほしい。

副委員長：みなさん長時間ありがとうございました。